

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒101-0065東京都
千代田区神田2-4-1
東方学会ビル3階
電話03(3234)4700
Fax03(3234)4703

日本中国友好協会
札幌支部編集
電話011(814)8658
Fax011(814)8658

終戦記念日に

召集令状（赤紙）を配布

不再戦の誓いを胸に

8月15日の終戦記念日、11時15分から札幌平和行動実行委員会（74平和・民主団体が加盟）が主催する「8・15反戦街頭宣伝行動」がパルコ前で行われました。

日本中国友好協会からは、三木ふみよ、影浦貞宏両事務局次長が参加し、全体で

50名の参加、約600枚の「召集令状」を配布しました。

手渡された老夫婦が立ち止まって「赤紙」をじつとご覧になっていたのが印象的でした。

赤紙による戦時下の

戦力増員

昭和6年満州事変、翌年の上海事変から日本は軍拡態勢に入りました。

昭和6年満州事変時、陸軍20万人、海軍7・8万人、計27・8万人。昭和12年中戦争本格化、陸軍45・9万人、海軍13・4万人、計59・3万人。

昭和13年、陸軍113万人、海軍113万人、計226万人。昭和16年、陸軍

パルコ前での赤紙配布活動

210万人、海軍31・1万人、計241・1万人。昭和19年、陸軍410万人、海軍129・5万人、計539・5万人。昭和20年、陸軍547・2万人、海軍169・3万人、計716・5万人。「防衛庁防衛研究所戦史室『戦史叢書 海軍軍戦備』」これを現役徴集率で現わしますと、徴兵検査受験人員の昭和8年徴兵検査受験人員の20%、13年40%、14年50%、19年77%。昭和19年には徴兵年齢を引き下げて、受験者を倍増させたにもかかわらず77%でした。さらに昭和20年では、徴集率は90%になる予定でした。当然、国内生産に携わる男性が激減、非生産者が圧倒したため、国内はもとより、戦地での食料不足は筆舌を極めるものでした。

あまりにもひどい

歴史認識

つい最近、名古屋市長が「南京大虐殺はなかった」と言って失笑を買った。厳しく批判されました。同様に、かの大戦は、日本の侵略でなかったという人たちがいるのにも驚かせます。

取り繕いの仕様がな

歴史の事実

1941年9月6日の御前会議決定の「帝国国策遂行要領」は、陸軍の対米英蘭戦争準備にゴーサインを出しています。

それは米英蘭からアジアを守るための「八紘一宇」の精神による、といっています。

では八紘とは、地上のありとあらゆる方面。一字は、それを一つの家のように統治し支配すること（小学館現代国語例解辞書）とあります。

さて「帝国」と使われるようになったのはいつの頃かは調べておりませんが、どのような辞書を見てもこのように書いています。

「帝国主義」一つの国家が、政治的、経済的に他国を支配して強大な国家を築こうとする動き、政策。あるいは「独占的な段階に達した資本主義を背景として、領土の分割をめぐって争う、対外膨張的な政策」とあります。当時の日本が「帝国日本」と公言してはばからなかったことを、あれは侵略でなかったと言うのは、あまりにも無知な主張ではないでしょうか。それとも日本語を良く理解できていないのか・・・？

日本中国国交回復40周年記念講演会

演題 「中国に主張すべきは何か」

急速な経済成長を続ける中国経済の今後 中国の軍拡をどう考える 政治制度等について

とき 9月30日（日）午後1時30～3時30分

ところ 苫小牧市市民会館205号室（苫小牧市旭町3丁目2-2電話0144-33-7191）

講師 大西 広 氏（慶應義塾大学経済学部教授 京都大学名誉教授）

参加費 500円（含む資料代）

主催 日本中国友好協会苫小牧支部 連絡先 伊藤貞市方TEL0144-72-5348

いずれにせよ、そのような国策に赤紙一枚（一銭五厘の命、昭和12年から二銭）で尊い命が失われたのはあまりにも悲しい事実です。（影浦貞宏）パルコ前で配布した「赤紙」を参考資料として、別紙で折り込みました。

劉連仁生還碑建立10周年記念当別ツアー

当別ツアーに参加して

日本中国友好協会札幌支部理事長 斎藤 康治

「劉連仁生還碑記念碑を伝える会」のご尽力に感謝します。

私は10年前の記念碑建立除幕式の式典にも参加しました。

今回の記念碑参拝後行われた報告交流会で学んだことを記したいと思います。



劉連仁生還碑建立10周年ツアー参加者と伝える会の方々

三上勝夫会長が、劉さん発見から帰国するまでの状態をくわしく話されたので、はじめて参加された方も納得してもらえたと思います。私は戦後7年間中国東北部の炭鉱で働いていましたので、劉さん生還について特別の思いを持っています。三上さんのお話から改めて生還の喜びを深めることができました。

次に記念碑建立について、会の役員はじめ会員の方々が5百万円の建設費協力を各団体や広く町民に呼びかけて、105団体1235人の町民などから543万円を集めて建立することができたというのですが、会員のみならず、ご尽力に感謝の気持ちで強くしたものです。

9月2日、劉連仁生還記念碑建立10周年記念ツアーが開催されました。

日本中国友好協会札幌支部からの7人をはじめ苫小牧、釧路の各支部や群馬県の会員、平和関係者など2人が、朝8時50分までに札幌駅北口鐘の広場、旅システムの旗のもとに集合。貸し切りバスは9時に、札幌駅を出発、一路当別の劉連仁生還碑に向かいました。現地では、劉連仁生還記念碑を伝える会の三上勝夫



三上勝夫会長の話を聞く参加者

会長など6人が出迎え、ツアー参加者を代表して群馬県から参加された加藤雪子さんが生還碑に花束を捧げ、劉連仁さんを偲びました。

伝える会会長代行の大沢勉さんが、劉さん発見・保護と生還碑建立の経過などを説明、碑を囲んで皆で記念撮影を行ってから近くの若葉会館に移動。

若葉会館の交流会では、主催者を代表して、山崎幸（現地参加）日中道連会長が挨拶。伝える会の三上勝夫会長から詳しい説明を受け、また、大嶽秋夫事務局長から碑建立の募金の取り組みや新しいパンフレットを作成したことなどの報告を受け、参加者から感想や意見を出してもらいなごやかに交流しました。

昼食は特製の弁当と当別名物のいも団子汁を食べ、当別の相馬さんからスイカと大きなトマトの差し入れがあり、皆で食べました。

ツアーの午後は、当別開拓の基礎を築いた伊達邦直の別邸と当別伊達記念館、伊達邦直を祭



本庄睦男の文学碑前で記念撮影

カレンダー普及のお願い

「中国 悠久の旅」

一本1200円

会員・準会員一人につき、一本以上の普及に、特段のご協力を、お願い致します。

日中友好新聞札幌版
会員・準会員の皆様の

原稿募集中